

第2回 箱崎キャンパス跡地利用協議会 議事要旨

開催日時：平成25年12月26日（木） 14:30～16:20

場所：九州大学箱崎キャンパス 本部第1庁舎第1会議室

会議次第

1. 開 会
2. 箱崎校区のまちづくりへの取り組みについて
3. 近代建築物について
4. まちびらきの目標時期について
5. 民間企業アンケート調査（中間報告）について
6. 閉 会

配布資料

（配布資料）

【資料1】委員等名簿

【資料2】箱崎まちづくり計画（案）

【資料3】近代建築物取扱いの方向性について（案）

【資料4】まちびらきの目標時期（案）

【資料5】民間企業アンケート調査（中間報告）

【資料6】参考資料（近代建築物の評価WGの評価報告＜第5回委員会資料＞）

（席上配布資料）

・アンケート調査票

議事要旨

1. 委員の出欠状況について

- 塚原委員は欠席。
- 松田委員は欠席。事務局より事前に頂いた松田委員からの意見を報告。
【松田委員からの意見】
 - ・先日、箱崎校区のワークショップに参加し、ベテラン、女性、若い方々の柔軟な発想に触れ、世代を超えてまちづくりに取り組むことの重要性を改めて感じた。
 - ・九大キャンパスがさまざまな用途のパブリックスペースとして活用されていることを再認識した。
 - ・今後も女性や若い方がまちづくりに参加できるよう工夫し、4校区が連携して多様な人材をつないでいただきたい。

2. 「箱崎校区まちづくりへの取り組みについて」の説明

箱嶋委員より【資料2】 「箱崎まちづくり計画」について説明。

■質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 菅松校区は、公民館の行事だけでなく、新しい人や既存団体に属していない人も自由に参加できるように、参加型のイベントを行っている。外に見えるイベントを通じて、周囲にも何を行っているか分かるようにし、一過性のイベントではなく蓄積型の活動として10年続けている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 松島校区は、新しい住民も多く、九大に近い地区では九大移転跡地への関心も高いが、九大から離れている地区では意識が低い。5年くらい前から4校区協議会検討状況等について報告を行い周知に努めている。 ● 松島校区は、水害が多いため、特に防災への関心が高い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 東箱崎校区は、九大の敷地が校区内にあるものの、実際の生活上では離れているように感じている。 ● 九大跡地については、この広い跡地の利用について、校区内で組織を作り、住民の意見を集めて、提言を作成した。東箱崎校区内で作った提言と4校区協議会で作った提言は方向性が一致しており、これをどう実現していくかが校区住民の願いである。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● (箱崎校区のまちづくりに対して) 地域が中心となって自らのまちの計画を作成しているのは素晴らしいと思う。さらに、地域の課題を整理しながら様々な年代の方とも議論して頂きたい。 ● 「まちづくり計画」は箱崎校区だけの計画なので、4校区で作る必要があると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 「箱崎まちづくり計画」の検討にあたっては、現況を知る「まち歩き」や住民参加のワークショップなどで課題も十分把握した上で、計画を作成している。 ● 「箱崎まちづくり計画」は、九大移転を契機とし、キャンパス南側を中心に平成18年に箱崎校区で作成したものである。その後周辺4校区で協議会を立ち上げこの計画なども踏まえて4校区協議会の提案を作成した。 ● 女性や若者、子どもたちの参加の場も設けていく。

3. 「近代建築物取扱いの方向性について (案)」の説明

事務局より【資料3】「近代建築物取扱いの方向性について (案)」に沿って説明がなされた。

■質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● AグループとBグループはどのような要素で差をつけたのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● Aグループの工学部本館及び本部第1庁舎は、福岡市の都市景観賞の受賞歴があり、また、数多くの文献に記載されるなど社会的評価が高い建物を選定している。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 色々な分野の専門家によるワーキンググループでの総合評価が基になっている。 ● 近代建築物の取扱いをA、B、Cにグループ分けして進めていきたいとのことだがいかがか。

一同了解

4. まちびらきの目標時期について

事務局より【資料4】「まちびらきの目標時期 (案)」に沿って説明がなされた。

■質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行エリアのまちびらきをH30年度～H31年度としているが、今から6年程度しかなく、跡地利用や基盤の計画をどうするかといったことや、埋蔵文化財調査、土壌汚染調査など下準備にも時間がかかるので、相当大急ぎで進めなければならない感じがする。従って、跡地利用計画の作成を早急に進めていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● これだけ広い土地なので、先行まちびらきのエリアを作って、勢いをつけて進めていくということはいいいことだと思う。 ● 広域の地図で見ても箱崎が重要な地点であり、広い視点から見て他の地区の活力の受け皿として受け止めることもできるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体のまちづくりを見据えた上で、きっかけづくりとして先行まちびらきを行ってほしい。 ● バリアフリーやユニバーサルデザイン等、生活の質を大切にまちづくりをする必要がある。 ● 若者や女性の視点を大切にまちづくりをして欲しい。
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体像を見据えた上で先行まちびらきを進めていくことは必要。 ● タイムスケジュールになっているので、来年度の計画策定がポイント。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者の選定をしなくても跡地利用計画作成はできるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 跡地利用計画を作成して、それに見合った事業者を選定していく方法と、事業者を先に決定して跡地利用計画に反映させていく方法があると思うが、今のところは両者を並行で捉えておけばいいと思う。少なくとも跡地利用計画に先行して、事業者選定（土地売却）することはないと考える。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 【資料4】「まちびらきの目標時期（案）」をプラットフォームとしながら計画を随時付け加えていき、時間軸を共有していくように作ってほしい。 ● 一気にまちづくりが出来るわけではなく、段階的なまちづくりの中に先行まちづくりエリアがあることを念頭に置いたほうがいい。 ● 今後、都市計画変更の手続きが必要になると思う。六本松キャンパスの際にも都市計画手続きに苦労し、スケジュールが延びている。目標に沿って都市計画変更手続きを進めていけるような準備をする必要がある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 【資料4】「まちびらきの目標時期（案）」を目標として掲げ、今後必要に応じて修正を加えていくという方針で臨みたいがいかかが。

一同了解

5. 民間企業アンケート調査（中間報告）について

事務局より【資料5】「民間企業アンケート調査（中間報告）」に沿って報告がなされた。

■質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートを受けた事業者から話を聞いたが、全体の事業工程、特に事業の実施時期が重要との意見がある。また、事業者は自分たちが進出して地域に受け入れられるかどうかを気にしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 細かく区画割りした場所でしか事業者のニーズは出てこないと思う。早急に跡地利用計画や道路の骨格を決めていかないと次のステップに進めないのでは。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来ビジョンの概要は記載しているが本当に事業者が理解して回答しているのか。将来ビジョンを実現することが重要であり、内容を理解した上でアンケートに答えてもらうような工夫がいるのでは。 ● 近隣に、障害児教育の導入を検討している幼稚園事業者がおり、広く緑豊かな場所を探しているとのことで、箱崎キャンパス跡地について聞かれた。アンケートの実施についても話をしたが知らなかった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査票は前半部分で箱崎キャンパスの状況、将来ビジョンの概要などを記載し、跡地の進捗状況を理解していただいた後に質問に回答していただくようストーリーを立てて回答を求めている。 ● 今回、九州経済連合会及び福岡商工会議所にご協力をいただき、同所・同会の会員を中心に様々な業種の企業に対してアンケート調査を行っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 九州大学と福岡市では、跡地利用協議会の開催状況などホームページ上でアップしている。また、アンケートと合わせて、九州大学のホームページ上で跡地利用に関する提案の受付を行っている。アンケートを送付していない企業にも、この中でご意見をいただければと考えている。

6. 幹線道路ネットワークのイメージ図

事務局より、スクリーン上に「幹線道路ネットワークのイメージ図（案）」を投影し、今後検討していくことになる幹線道路ネットワークのイメージの説明がなされた。

■ 質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 堅粕箱崎線の未整備区間の既存道路を広げることで、跡地の新たな需要を広げることになるのでは。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路計画を考える観点としては二つある。一つは、長期的に交通流量が成り立つかということと、もう一つは土地の付加価値を上げられるかと言うであり、この二つを考えていかなければならないと考える。 ● スライドの図では、西から東へ抜けにくい形になっているので、国道3号と国道3号博多バイパスを真っ直ぐ抜いてしまうくらい考えでもいいのかと思う。この土地の欠点としては、東西の交通流動が悪いことであり、箱崎阿恵線も混雑し始めている。また周りの住宅地でも車の交通量が多くなっているように思われる。慎重に考えたほうが良いと思う。 ● もう一点の土地の付加価値を高めるためにも、福岡市・東区を代表するような目抜き通りを作ることも考えて欲しい。それにより跡地の付加価値も高まると思う。 ● 貝塚公園を含めた貝塚駅周辺についても一緒に考えなくてはならないと思う。跡地を考える上で併せて貝塚駅周辺の拠点化を図る必要があると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● スライドの図では、貝塚駅のアクセスする道路が示されていない。貝塚駅の付加価値を高めることも当初からの方向性だと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回出したイメージ図はあくまで案の一つである。道路については、いくつかパターンを考えて比較評価する必要があると考えている。それぞれの道路の役割についても考えながら、道路ネットワークパターンについて議論していきたい。

7. その他の質疑及び意見交換要旨

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● （九大箱崎キャンパス内にある）まつぼっくり保育園については、もともと九大の職員組合の保育所として設立した経緯があり、また、移転により認可保育園がなくなると、行政の待機児童をなくすという施策に逆行することになる。九州大学、福岡市はその責任を認識し、九州大学の移転に関わる課題
----	--

	として対応していただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ● 箱崎のまちづくりについては、4校区全体の計画をどのように立てていくかがこれからの話としてありそうだ。 ● 近代建築物については、3つのグループ分けで話を進めていく。 ● まちびらきの目標時期については、先行まちびらきまで5、6年しかないタイトなスケジュールとなるが、全体を見据えた上でこれをベースに進めていく。 ● 都市計画の変更手続きは、速やかに進めていけるように準備を行っていただきたい。 ● 民間アンケートについては、今回は中間報告であったので、次回最終報告をお願いしたい。 ● 道路ネットワークについては、付加価値を高めるという作業が十分ではないという指摘もあったことから検討して次回の資料に結びつけていただきたい。
8. 閉会	

以上